

# 花の美術館だより

FLORAL MUSEUM NEWS

アトリウムフラワーガーデンの四季  
フラワーカレッジから  
都市緑化植物園のご案内



Vol. ③

# Atrium Flower Garden

## changes of four seasons

アトリウムフラワーガーデンの四季

花の美術館の目玉は何と言ってもアトリウムのフラワーガーデンです。このフラワーガーデンは、アトリウムの吹き抜け空間を街並みに見立てて、そこに色とりどりの季節の花々を組み合わせてつくった室内花壇とでもいえるでしょうか。毎回展示テーマを決めて、季節の花や季節を先取りした花々を展示しています。今年の春は『春爛漫』、夏は『ひとときの涼』、冬は『サンタの贈物』というように。春にはチューリップをはじめ華やかな花たち、初夏には甘い香りのユリやアジサイ、夏には涼しげな観葉植物、秋にはススキや色とりどりのキク、そして冬になるとシクラメンやポインセチア、それに高さ4mもの大きなクリスマスツリーがアトリウムを

彩ります。一度だけでなく異なった季節に訪れれば、この花の美術館で季節の移り変わりを感じていただくこともできるでしょう。

アトリウムの中は、大きな3つの花壇のほか、寄せ植えや寄せ鉢などがあります。また、展示している植物は、花をただ並べるだけでなく、吊り鉢・ハンギングバスケットなども使って空間の装飾も心掛けています。珍しい花・難しい花はありません。街角や家庭で見られる一般的なものばかりです。全体を見渡して楽しむだけでなく、庭づくりやベランダでの花の飾り方のヒントにしたり、1つ1つの花を注意深く見て、お気に入りの花を見つけて育ててみてはいかがでしょうか。

 <p>春の花が盛りだくさんのフラワーガーデン。チューリップ・マーガレット・プリムラ・アナモネ・ビオラなどが、よりいっそう春らしさを演出します。</p>	 <p>青とピンクのアジサイとトラデスカンチア（ツユクサの仲間）、アジアンタム、ピンクのインパチェンスなど梅雨どきが似合う花で初夏を演出しました。</p>
<p>正面入口の寄せ植え。コデマリ・チューリップ・ブルーデージー・ユリオブスデージー・シロタエギクの大小3つの鉢を組み合わせるとボリュームを出しました。</p>	 <p>真夏のフラワーガーデン。夏は花が少ないのですが、バナナ・パパイヤなど熱帯の果物でトロピカルムードを盛り上げ、観葉植物を多くすることで涼しさを表現しました。</p>

<p>春 SPRING</p>		<p>夏 SUMMER</p>
<p>WINTER 冬</p>		<p>AUTUMN 秋</p>

 <p>星を型どったポインセチアの赤と枠の緑。クリスマスカラーでまとめた華やかな花壇です。館内にはたくさんのクリスマスツリーにぎやかさを競いました。</p>	 <p>天井から吊り下げた懸崖菊の吊り鉢。和風の懸崖菊も思い切ってこんな使い方することでダイナミックに目に迫ってきます。</p>
<p>冬の代表的な鉢花シクラメンと寒さにも強いコニファーを組み合わせた寄せ植え。赤とピンクのシクラメンが暖かさを感じさせてくれます。</p>	 <p>木の感触のやさしい花車のコンテナにはコスモスが似合います。小さなコンテナもアスター・コリウス・キク・ケイトウなど秋の花がこぼれんばかりにつまっています。</p>

## フラワーカレッジから

今回は11月に行われた「香りを暮らしに生かす」から、香りの世界をほんの少しご紹介いたします。講師の先生は資生堂香料研究部の逢田（よもぎだ）先生です。魅力的だけれどもよく分からない香りの世界をのぞいてみましょう。

### 1 香りはなぜあるの？

においては植物、動物を含めた自然界でコミュニケーションの役割、特にサバイバルとしての役割が強いです。サバイバルには自己保存と種の保存の二つの面があります。



やばいの葉はテントウムシに食われると匂いもたして、他の木に知らせて、知らせてもつけた木は葉を固めて食われないようにします。

キリシバは食害動物の匂いと危険な匂いもよく知っています。人間はその他にも古代から神とのコミュニケーションとしてや、薬として、異性を惹く媚薬として、体臭をけす役割としても香りを使ってきました。

### 2 香りの種類はどんなもの？

いい香りを放つ物質には動物性と植物性の物があります。動物性は「黄金以上の貴重品」と呼ばれた4種の香料、麝香鹿（じゃこうじか）の香のうからとるムスク、麝香猫（じゃこうねこ）の分泌物から取るシベット、マッコウ鯨の体内から取れるアンバー、ビーバーの香のうから取るカストリウムです。植物性には三大花香と呼ばれるジャスミン、ローズ、スズランなど花の香りの他、沈香のような木、葉、実、樹脂の香りと数えきれないほどの種類があります。

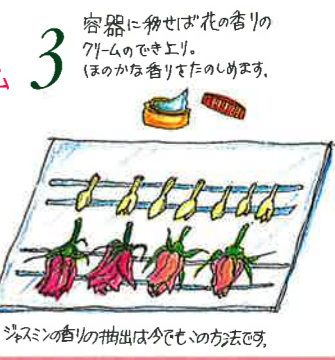
### 3 香りはどうやって抽出するの？

香りの100%天然エキスである精油を得るために様々な方法が試みられています。レモンやオレンジ等の果皮に圧力をかけて絞り取る圧搾法、水蒸気と一緒に運ばれた香りを冷却して取り出す水蒸気蒸留法、溶剤に浸して抽出する溶剤抽出法、脂肪に香りに移すアンフルラージュ法などがあります。最近ではハーブの流行などと共に、香りに関心がもたれ個人用の水蒸気蒸留器も販売されていますが、一番手軽に楽しめるのはアンフルラージュ法を使って香りに移すやり方です。

### ●アンフルラージュ法による簡単な香りの楽しみ方—ハンドクリーム

- 1 無香料のハンドクリームを用意します。
- 2 ラップ（あわがフス板）の上に厚さ1cmくらいにクリームを塗り、上に好きな香りの花をおきます。（常温で1〜2昼夜）香りがクリームに移ります。

3 容器に物せば花の香りの7〜8割の力で上り、ほんのりとした香りになります。



参考図書「私の香り」求龍堂

ジャスミンの香りの抽出は今でもこの方法です。

## 都市緑化植物園の御案内

千葉市都市緑化植物園では、たくさんの草花たちが、みなさんの来園をお待ちしています。新春草々には、スイセンが花を開くと共に、春を告げる花木『マンサク』が黄色の花を1月下旬から咲かせます。

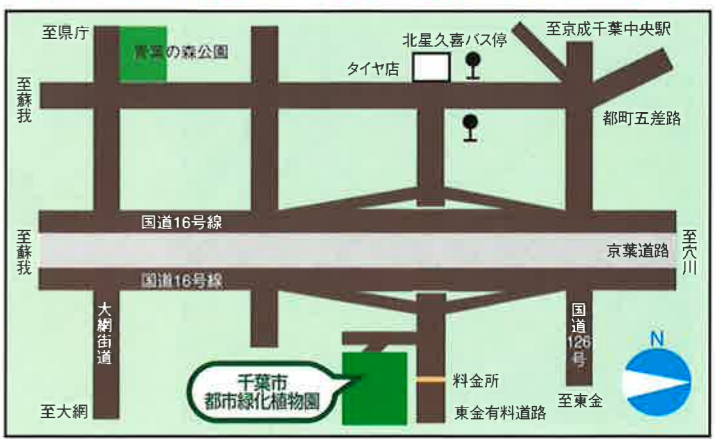
**\*庭木の冬の管理について\***  
庭木に春から花を咲かせ、実も楽しみたい！というのなら、冬の間の管理が大切です。

まず剪定ですが、カキ・バラ・モミジといった落葉樹は、これから2月末までに不要な枝を剪定し、樹形を整えます。つぎに、消毒作業ですが落葉している今がしつこいカイガラムシを退治するチャンスです。石灰硫黄合剤をカキのような落葉樹には7〜10倍、ツバキのような常緑樹には20〜40倍に希釈して散布します。また黒星病など、他の病害虫にも効果があります。

寒肥も、1月中に実施します。牛フン、鶏フンに骨粉を混ぜ、庭木の枝の先端の下辺りを目安に穴を掘り、施します。この辺りには、養分を吸収する根の先端があるからです。肥料が発酵するのに2〜3か月かかるので、今頃実施すれば、4月の芽吹きごろに効果が現れます。

「花が咲かない」「庭木に元気がない」、あるいは植物の栽培方法や病害虫の防除など、緑についての相談は専門の『みどりの相談員』がお答えいたします。相談は、電話でもお受けいたします。なお、相談受付時間は午前10時〜午後4時30分までです。開園時間は午前9時〜午後5時、入園無料、毎週月曜日（祝日の場合は翌日）が休園日となります。交通機関は、JR千葉駅⑩バスのりばから「蘇我駅東口」行、またはJR蘇我駅東口から「矢作経由」JR千葉駅又は千葉ポートタワー行で約15分、「北星久喜」下車徒歩5分です。

詳しくは、中央区星久喜町278番、都市緑化植物園（☎264局9559番）へ。（都市緑化植物園）



# INFORMATION

## 緑のたよりをお待ちしています！

あなたの身近な緑を皆さんに紹介してみませんか。  
 季節の草花や観葉植物、花木、山野草、ハーブ、野菜などどんな花やグリーンでも結構です。もちろん、花壇や自宅のお庭や室内、ハンギングバスケットも大歓迎。応募の際は、花やグリーンのカラ写真とコメント(自分流の楽しみ方、育て方、苦労話など)を同封の上、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、〒261 千葉市美浜区高浜7-2-4 花の美術館「緑のたより」係までお送りください。なお、写真は返却できませんのでご了承ください。また、掲載等は編集部の一任とさせていただきます。



## 花の美術館の マスコットが 決まりました。

名前はたくさんの応募の中から  
 “はなちゃん”に決まりました。



## アトリウムフラワーガーデン展示予定

外はまだ寒く、草木の色もくすみがちです。そんな季節も花の美術館の中は、色とりどりの花達が咲き誇っています。元気な花達に会いに来ませんか。

- 新春の煌めき 1/4~1/18  
ランやプリムラなどが新しい春をさわやかに彩ります。
- 春のささやき 1/20~3/1  
フリージアやプリムラ、アネモネなど春を待つ花達の小さなささやきをお届けします。
- スプリングハーモニー 3/3~4月上旬まで  
チューリップ、マーガレットなど春を楽しむ花達のハーモニーをご覧ください。

## 多目的展示室予定

- 植物種子写真展 1/4~1/11
- 身近な草木で楽しむクラフト展 1/13~2/1
- 洋ラン展 2/3~2/8
- フラワーデザイン展 2/10~2/22
- アートフラワー展 2/24~3/1
- ステンドグラス展 3/3~3/15
- 押し花絵展 3/17~3/29

## フラワーカレッジ予定表

日程	講座名	講師名	材料費	時間
2月7日	洋ランの育て方	奥山 隆保	無料	13:00~15:00
2月11日	わらを使ってミニ草履を作る	榎本 正吾	500円	13:00~15:00
2月14日	キャンパスにドライフラワーをアレンジ(壁掛け用)	宮崎久美子	2,000円	13:00~15:00
2月21日	野の蔓を使って花籠を編む	菊池 三江	2,000円	13:00~15:00
2月28日	春の花を使ったアレンジメント	岡田 好美	2,000円	13:00~15:00
3月7日	卒業式用コサージュ	浅井 典子	1,500円	13:00~15:00
3月14日	鸚草の栽培実習	福田 洋	2,000円	13:00~15:00
3月21日	押し花額絵	山岸 英子	2,000円	13:00~15:00
3月28日	ドライフラワーをミニグラスにアレンジ密封	伊坂八千代	2,000円	13:00~15:00

※募集人数/各20名 場所/花の美術館 1F「花工房」 募集期間/講座開催日 前月15日~25日(必着)  
 応募方法/往復はがきに希望講座、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、返信の宛先を明記し、〒261-0003 千葉市美浜区高浜7-2-4 花の美術館フラワーカレッジ係まで。(1通につき1人1講座)  
 ※募集案内は「ちば市政だより15日号」に毎月掲載しています。予定は予告なく変更することがあります。必ず、「市政だより」で確認してから応募して下さい。

表紙作品/「バラのイス」  
 松田隆作  
 花の美術館常設展示



千葉市 花の美術館  
 FLORAL MUSEUM

【開館時間】9:30~16:30  
 【休館日】毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日が休館日)および12月29日から1月3日まで  
 【入館料】大人200円、小・中学生100円/団体割引(30名以上) 大人160円、小・中学生80円  
 /年間パスポート 大人1000円、小・中学生500円(1年間本人に限り何回でも入館できます。)  
 【交通】JR総武線「稲毛駅」よりバス利用②番「高浜車庫」または「花の美術館前」下車、JR京葉線「稲毛海岸駅」よりバス利用②番「海浜プール入り口」下車/東関東自動車道「湾岸習志野インター」(東京方面)・「湾岸千葉インター」(成田・木更津方面)から国道357号経由  
 【問合せ】〒261-0003 千葉市美浜区高浜7-2-4  
 千葉市花の美術館  
 電話 043-277-8776 FAX 043-277-8674